

平成 29 年 12 月 29 日

埼玉県ミニバスケットボール連盟
マンツーマン推進委員長 矢嶋吉雄

トーナメント大会におけるマンツーマン・コミッショナーの設置について

本年度の埼玉県ミニバスケットボールトーナメント大会におけるマンツーマン・コミッショナー（MC）の設置については下記のとおりとします。皆様のご協力をお願いいたします。

記

- 1 1月21日及び28日の会長杯の試合にMCを設置します。
MCは全て派遣とします。
- 2 それ以外の試合には特段MCの設置はしませんが、マンツーマン推進に取り組むものとします。

以上

尚、12月9日付で「マンツーマンディフェンス基準規則」及び「同補足説明」が改定されています。本年度のトーナメント大会は、**改定後の基準規則に基づき実施するものとします。**

マンツーマン推進の運用における変更点（JBA 資料） 別紙のとおり
詳細については、JBA ホームページをご覧ください。

JBA ホームページ⇒選手育成⇒マンツーマンの推進

マンツーマン推進の運用における変更点

【変更内容】

①、②は U15(中学)カテゴリーのみ、③は U12(ミニ)・U15(中学)カテゴリーの両方において変更する。

①「マンツーマンディフェンスを行っている前提において、予測に基づくプレイとコミッショナーが判断した場合は、基準規則違反とは見なさない。」…U15(中学)カテゴリーのみ

<補足>

- ・「予測に基づく」とは、予測の根拠となる動きがあることを示す。
- ・マークマンを意識せずにエリアを守ることはマンツーマンの趣旨に反するため許されない。
- ・ミニバスケットボールにおいては本内容は適用しないが、下記③の通り、制限区域内のみで予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される。

※U15(中学)年代では、バスケットボールの経験値、技術、バスケットボールの理解度も上がることから、選手自身の予測を伴うプレイを許容する。ただし、U12(ミニバスケットボール)年代では、バスケットボールを学ぶ入口であることであり、基礎を身に付けることが優先であるため適用しない。

②「ボールを保持しているプレイヤーへのトラップは許される。」…U15(中学)カテゴリーのみ

<補足>

- ・U15(中学)年代では、ドリブルの有無、ボールマンへの距離に関係なく、全ての場面においてボールを保持している選手へのトラップは許される。
- ・ただし、マンツーマンディフェンスを行っている中でトラップすることが前提であり、トラップ解消後はマークマンに戻らなければならない。

③「制限区域内において、予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される。」…U12(ミニ)・U15(中学)カテゴリー両方

【導入時期】

	2017 年度	2018 年度
U15(中学)	「第 31 回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会 2018」において導入する。 上記以外の大会においては、大会主催者の判断に委ねる。	完全実施
U12(ミニ)	「第 49 回全国ミニバスケットボール大会」においては導入しない。(改定前のルールにて実施) 上記以外の大会においては、大会主催者の判断に委ねる。	完全実施